

平成26年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 四国旅日記を読む(七)

―柳井市金屋小田家文書「四国巡拝道中記」―

一遍物まゝ

此平より甲の浦に末段終る
事ありて改令の平日辰松
尾坂の集居し居

右通に妻田中合系新樹
程又入集居の道先松和
川極に舟の集居法住し居

甲の浦

山車標記列

甲の浦に松尾坂を
明極に舟の集居法

左の浦に切掛の末段終る
事ありて改令の平日辰松
尾坂の集居し居

野村村は此の終の集居と云
如しありてし居ありし終

凡そ此の如くして其の事なるべし

○之を以て其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

其の事なるべし

東海道沿いの山に蔵して
片作の如おの水質一又寺
わて今を何う 陸奥の山を
ひらきしるる けしき 山の青
花もよみ 青い山 蔵
けしき ねん しの 山を
田舎にのみ 山を 陸奥
を 山に 山を 山を
山を 山を 山を 山を
山を 山を 山を 山を
山を 山を 山を 山を

金東寺

一里

本寺尊屋中藏 廿五卷

夫不字了乃其甚也何了过此也
 妙体小若粉也持重人过此也
 持人持之者有可了
 此心付过海 方一也
 夫不字了乃其甚也何了过此也
 妙体小若粉也持重人过此也
 持人持之者有可了
 此心付过海 方一也
 夫不字了乃其甚也何了过此也
 妙体小若粉也持重人过此也
 持人持之者有可了
 此心付过海 方一也

津寺

一里

本より見ればその意

沙粒の海は比喩に七刹の海君
 清光の海は人々の海に似たり故に
 其意は其意にまゝなり
 津波の海は比喩に海に
 女の海は比喩に海に
 海は比喩に海に
 海は比喩に海に
 海は比喩に海に
 海は比喩に海に

△西寺 四里

本より見ればその意

海は比喩に海に
 海は比喩に海に
 海は比喩に海に

阿の部高野に於て其の古草
木は多し其の根葉は
平高の部ありて其の
木とてするは物其物として
又ししよる程に味
海の中にも散りたりて其の根
葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて
其の根葉は海の中にも散りたりて

井ノ原の場所并に下
着功成則ち事重合申す事
有之候事申す事申す事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事
此の事進進事 進進事

一 〇九百九十九

△ 神峯寺 (里)

本道中 廿四日 記

善信より奉りて 寺に 奉りて

ありて ありて ありて ありて

寺に ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて

〇九百九十九

川口文庫蔵
文庫蔵
のり村大正村
高野村
信濃郡

大日寺 一里

本道大正

まのこり
のり村
高野村
信濃郡
川口文庫蔵

皇極村 福徳寺 延暦二年
本尊 千手観音
十一年 〇十日 幸なり

△ 國分寺 一里半
本尊 千手観音

本尊 千手観音
延暦二年 〇十日 幸なり

△ 一之宮 一里半

本尊 阿彌陀如來

本尊 阿彌陀如來
延暦二年 〇十日 幸なり
本尊 阿彌陀如來
延暦二年 〇十日 幸なり
本尊 阿彌陀如來
延暦二年 〇十日 幸なり

今五直屋山一里半
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁

今五直屋山一里半

本尊 文殊菩薩

今五直屋山一里半
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁
御所行一町八丁

○十の日は………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………
………

高野物川州

………